

05 持続緩除式血液濾過法における医療事故防止策

特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院 臨床工学室¹⁾、腎臓内科²⁾、外科³⁾

佐藤茂¹⁾、石井麻里子¹⁾、阿部誠¹⁾、秋吉美奈¹⁾、井福武志¹⁾、東治道²⁾、井手道雄³⁾

【目的】アフエレンス療法を施行するには医療機器が必要不可欠であり、これらを安全に遂行するには、臨床工学技士(CE)の課す役割は大きい。数多くあるアフエレンス療法の中、持続緩除式血液濾過法に関しては、他の療法に比し看護師等に依存する面も多く、安全性の確立、如いてはチーム医療の確立が重要であり、それに係る医療チームの知識、技術の向上は必須である。当院、臨床工学室では、医療事故防止対策の一環として、技士向け、ならび医療スタッフ向けマニュアル等を作成し事故防止に努めている。今回、当院におけるマニュアルを提示すると共に、今後の課題について報告する。

【方法】技士向けマニュアルでは、プライミングから始まり、保守管理(機器日常・定期点検、緊急対処等)、医療スタッフ向けには、動作原理、操作方法、警報、禁忌事項が明確に記述された簡易取り扱い説明書を作成した。

【結果】今回、映像を多く取り入れることにより、技士は、統一した機器点検の充実が計られた。医療スタッフ側では、操作ならびチェック箇所、警報対処法、また患者様を取り巻く数多くの機器についても理解が図られた。

【結論】今後、リスクマネジメントの構築に努め、それに伴ったマニュアルの改善が必要である。

06 アフエレンスにおける循環血液量の監視に基づいた安全な治療の実現のための対策

東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化部門

江口圭、金子岩和、峰島三千男、秋葉隆、二瓶宏

【目的】近年、体外循環をとまなう血液浄化療法の分野では、専用装置の開発や種々のモニタリング機構が採用され、より安全な治療の実現が可能となった。それらの中でも、CRIT-LINE に代表される循環血液量(BV)モニタは、治療中の患者のBV変動を簡便に監視でき、その有用性が多数報告されている。今回我々は、BVモニタをアフエレンスの分野に応用し、各治療法別のBV変動を観察した。さらに、そのBV変動の成因を分類し、各々について対処法を模索した。

【方法】種々のアフエレンス施行時に得られた BV 変化率データと患者血中アルブミン濃度、置換液中アルブミン濃度、置換液量、体重、プライミングボリューム(PV)量などとの関係を調べた。

【結果】アフエレンスにおける BV 変動の成因は、血漿交換にとまなうタンパク収支の不均衡と血液希釈による血漿タンパク濃度低下に大別された。さらに、その成因に基づき、BV の変動を軽度を抑えたより安全な治療の実現には、適切な置換液濃度・量の設定やPVの削減、血液製剤による回路内充填などの対策が必要と思われた。

【結論】1.アフエレンスを安全に施行する上で、BV モニタは有力な情報となる。2.BV 変動の監視により、設定された置換液の妥当性や血液製剤による回路内充填の必要性が判断できる。3.BV 変動の成因を分類し、各々について適切な対処法を構築していくことが必要と思われる。